

教科名		【教科：理科】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		東京書籍	大日本図書
調査の観点			
A 内容 について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 本文中の「例題」「練習」「確認」等でつまづきやすい問題を示してあり、基礎・基本の定着がしやすい。 「学習内容の整理」、「確かめと応用」で用語やポイントなど基礎の定着を図る工夫がされている。 「これまでに学んだこと」により、既習事項の確認をすることができる。また、内容に関する説明が充実していることや、「学びをいかして考えよう」を活用することで、基礎・基本の確実な定着を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を読むことで、基礎的な内容を理解することができるように工夫されている。 単元ごとに「まとめ」で用語の整理がされているとともに、「これまでに学習したこと」や「思い出そう」で既習事項が写真とともに記載されており、基礎・基本の徹底につなげることができる。 「単元末問題」で用語やポイントなど基礎の定着を図る工夫がされている。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「考えてみよう」「話し合ってみよう」「活用してみよう」などの見出しで、計画や予想などの活動を促すことにより、課題解決のための思考力を養う工夫がなされている。 生物分野の写真や図が特に大きく紹介されており、視覚的な理解を図ることができる。 「問題発見」や「課題」、「考察しよう」の発問を通して、生徒同士の話し合い活動を設定することができ、考えを広げたり、深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問題を見つけよう」「結果から考えよう」などの見出しにより、課題解決のための思考力を養う工夫がされている。 「暮らしの中の理科」を活用することで、既習事項が実生活の中でどのように活用されているかを理解することができる。 「探究活動」や「課題に対する結論を表現しよう」などで課題に注目し、まとめるための道筋を示している。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピック・パラリンピックなどで使用される技術などの紹介のページがある。 「世界につながる科学」や「インタビュー」等における日本の温暖化予測技術の紹介など、先進的な内容を通して、既習事項を社会につなげる意識をもたせることができる。 「世界につながる科学」で最先端のトピックなどを扱い、興味を引く内容になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> マイクロプラスチックによる環境汚染など、現代的な環境問題について取り上げられている。 「つながる×Science Press」で最先端のトピックなどを扱い、学習内容と関連のある事項に興味をもたせる内容になっている。 「Professional」で理科に関する仕事を紹介され、キャリア教育の視点でも生徒に有効である。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年の単元でSDGsについて取り上げている。 「世界につながる科学」や「インタビュー」等の話題をSDGsの17の目標につなげ、問題を解決する能力・態度を育成することができる。 環境・資源・防災等に関する内容について触れており、課題意識を高められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「環境」の見出しで、環境に関する話題を紹介し、身近な環境に対する意識を高めるようになっている。 第3学年の単元の終章でこれからの暮らしについて取り扱っており、課題意識をもたせている。 「世界につながる科学」や「インタビュー」等の話題をSDGsの17の目標につなげ、問題を解決する能力・態度を育成することができる。 ESDと関連ある事項について、アイコンを示すなどの工夫がされている。
B 使用上の 便宜 について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の導入」「学習課題」が単元ごとに示されていて、生徒が主体的に学習に取り組む意欲を促す工夫がされている。 デジタル教材があり、視覚的に理解ができる。既習内容の記載が本文の横に豊富にあり、関連付けて学習できる。 「特設ページ」を通して、既習事項を振り返ることができる。また、「科学の本だな」や「つながる科学」、「学びをいかして考えよう」を通して、生徒の興味・関心をたかめるなど、学びに向かう力・人間性を育てることができる。 書籍の紹介や、高等学校で学ぶ内容の紹介など、より深い内容を学べる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末の「探究活動」により、生徒が主体的に学習する機会を設定している。 実験観察が1ページにまとめられており、流れが分かりやすい。まとめも文章を読むことで理解しやすい工夫されている。 「つながる×Science Press」を活用することで、既習事項と関連した項目を調べたり、生徒の興味ある項目を調べたりすることがある。 「やってみよう」「探究活動」で課題への取り組みや、実験の方法などを扱っている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東京都および関東地方の資料が複数使用されている。 「学びをいかして考えよう」では、地域との関わりをもたせる内容を設定することが可能であり、多摩市の実態に即した学習をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都および関東地方の資料が複数使用されている。 「暮らしの中の理科」では、地域との関わりをもたせる内容を設定することが可能であり、多摩市の実態に即した学習をすることができる。 多摩市を含め、多摩地区の写真が使われている。

教科名	【教科：理科】	教科書調査報告(教科書調査委員会)	
発行者名	学校図書	教育出版	
調査の観点			
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 文章と図がバランス良く配置され、どの図を説明した文章かが分かりやすい。また、図や表が大きく、見やすいので、学習内容の理解がしやすい。 実験結果や考察が具体的に示されているので、実験方法を再度見直して確かめることができる。 日常につながるような内容が多く、日常生活の一部分をイメージしながら学習することで、基礎・基本の定着につなげることができる。 「この時間の課題」には、どのような力を身に付けるのか示されており、授業の終わりに振り返ることで、学習内容の定着を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末にある「要点と重要用語の整理」では、用語や重要なポイントがまとめられており、基礎・基本の定着が図れる工夫がある。 「基本問題」では、学習したことを確認できるように工夫されている。 用語等の説明が充実しており、生徒自身が教科書を使い、自学自習を行える。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの「探究」を基に、見方・考え方を働かせた授業を実施しやすく、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践につなげていくことができる。 実験、観察のページで、結果、考察の見方・考え方を示すことで、思考の流れを整理しやすくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考えよう」では、生徒が身近な科学的事象について深く考えられるような工夫がされている。 「疑問から探究してみよう」では、学習したことを基に課題解決を行う機会を設定している。 「課題」や「話し合おう」を基に教師が発問を工夫することで、見方や考え方を深める授業を実施しやすく、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践につなげていくことができる。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ理科を学ぶの？」では、学習したことが社会のどのような内容と関連しているかが紹介されており、理科の有用性が理解できるようになっている。 「サイエンスカフェ」等の資料は、事物や事象を明確に捉えた写真が多く使われており、観察や実験の理解につなげることができるとともに、学びの一助となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋ゴミや3R(リユース・リデュース・リサイクル)などについても取り扱っており、環境問題に興味をもたせている。 「ハローサイエンス」で、生徒が学習した内容と関連する内容について事例を示すなどして興味や関心をもち、学習できるようにしている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第1・2学年の最初に、SDGsの記載がある。 サイエンスカフェで防災・減災・安全に関する話題を紹介し、災害安全に留意する態度を育てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年「終章」で、「持続可能な社会をつくるために」「SDGs」について紹介されており、課題意識をもたせるようになっている。 「ハローサイエンス」の項目を活用し、教師がSDGsの目標につなげることで、問題を解決する能力・態度を育成することができる。
B 使用上の便宜について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年「終章」で、「持続可能な社会をつくるために」、「SDGs」について紹介されており、課題意識をもたせるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「探究の進め方」が具体的に示されており、どのように考えていけば良いのか分かりやすい。また、「実験・実習」の方法が簡潔に示されている。 デジタル教材があり、視覚的に理解ができる。実験の方法や結果の写真が豊富である。 「ハローサイエンス」の項目を基に、興味のある内容を自ら調べることで、学習を深めることができる。 「探究してみよう」のページで課題への取り組みや、実験の方法などを扱っている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東京都および関東地方の資料が複数使用されている。 「学び続ける理科のマスター！」や「課題発見」の中から、地域との関わりをもたせる内容を設定することが可能であり、多摩市の実態に即した学習をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都および関東地方の資料が複数使用されている。 「やってみよう」の項目を活用し、地域との関わりを教師が設定することが可能であり、多摩市の実態に即した学習をすることができる。

教科名		【教科:理科】	教科書調査報告(教科書調査委員会)
発行者名		新興出版社啓林館	
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の「学習のまとめ」で重要な用語やポイントをまとめている。 ・実験・観察にポイントや注意が多く記載され、また、各ページに図や写真が豊富にあるなど基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がされている。 ・用語等の説明が充実しており、生徒自身が教科書を使い、自学自習を行うことができる。 ・「例題・練習」でつまづきやすい問題の考え方を示しており、「力だめし」で基礎の定着を図る工夫がされている。 	
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」「話し合ってみよう」「活用してみよう」などの見出しで、計画や予想などの活動を促すことにより、課題解決のための思考力を養う工夫がされている。 ・「探Q実験」では、通常の観察・実験をより探究型の実験にすることで、仮説や計画などを立てさせ、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫している。 	
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードによってインターネットを活用するなど学習内容に関わる資料だけでなく、学習方法に関わる資料が充実している。 ・最先端のトピックなどを扱い、学習内容との関連ある事項に興味や関心をもって、学習できるようにしている。 	
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点を取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境」の見出しで、環境に関する話題を紹介し、課題意識を高めている。 ・第3学年の最後の章に循環型社会について記載があり、これからの社会の在り方について課題意識をもたせている。 ・「ひろがる世界」を活用し、教師がSDGsの目標につなげることで、問題を解決する能力・態度を育成することができる。 ・「防災・減災ラボ」では、自然災害の仕組み等を紹介し、課題意識を高めるようにしている。 	
B 使用上の 便宜 について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材があり、視覚的に理解ができる。実験の方法や結果の写真が豊富である。 ・巻末に探究シートがあり、単元の内容と連動させて利用することで、思考の筋道を立てやすい。 ・「深めるラボ」を通して、発展的な内容や高等学校での内容に触れることができ、生徒の学びに向かう力・人間性等の向上につなげることができる。また、教科書に記載されているQRコードを読み取ることによって、内容の理解に役立つ実験や図、動画等を見ることができ、生徒自ら、学習内容の理解を深めることができる。 ・「探Qクラブ」で学習内容を基に、探究活動ができるようになっている。 	
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都および関東地方の資料が複数使用されている。 ・「みんなで探Qクラブ」や「お仕事ラボ」を活用し、地域との関わりを教師が設定することで、多摩市の実態に即した学習が可能となる。 	